

平成 27 年 5 月 16 日
NPO 法人犬と猫のためのライフポート
理事長 稲葉友治

2015 年度事業計画

■事業計画策定にあたって

事業報告のとおり、2014 年度は当団体の活動の柱である譲渡を大きく減らしてしまい、また犬猫たちのためになる新しい試みも行うことができず、組織としての力不足を認識せざるをえない年でした。

新年度は、これまでの成功例と失敗例を今一度深く分析した上で、組織内に広く浸透させ、今後も活動を広げていけるようにいたします。

譲渡実績を早急に回復させ、さらに次のステップに進んで参りますので、皆様のご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

■譲渡目標について

2015 年度の年間譲渡目標は犬 550 頭、猫 950 頭の合計 1,500 頭とします。

前記の通り、2014 年度は譲渡数を大きく減らしてしまいましたが、多くは業務の改善で解決できるものと考えております。また、おかげさまで多くの方に支えられて、支援金も回復しつつあり新年度はより積極的な活動ができるものと考えています。

■飼育管理効率の目標について

上記の目標を達成するため団体内部で飼育管理の目標を数値として共有し、実現に向けて業務の改善を行います。

犬は譲渡まで日数 40 日、猫は 45 日を目標とします。

これまで多くの方のご支援をいただきながら実績を残せたのは、とにかく多くの子を救いたいという思いからでした。ある意味で譲渡数はこうした思いを実行したことによる結果に過ぎず、なにより大切なのは団体としてのポリシーだと考えております。

しかし同時に、団体としての活動も 15 年以上になり、社会環境も変化し、気持ちだけ

で同じ方向を向くのは難しくなっている一面があります。
組織としてより良い活動をするために「助けたい」という気持ちを、どのように具体的な活動に落とし込んでゆくのかの重要性が改めて大きくなっています。

■譲渡能力の向上

おかげさまで多くの犬猫にご縁がありますが、行政機関ではまだまだ多くの子たちが殺処分されています。こうした子たちを救うためには、施設で譲渡可能になった動物たちを一日でも早く譲渡し、保健所で待っている子たちを受け入れられるようにする必要があります。譲渡能力強化のため下記を実施します。

- ・ 施設のある地元千葉県での認知向上。
- ・ 譲渡会にターゲットを絞った地域密着の告知等。
- ・ 大都市での譲渡会の開催
- ・ イベント・SNS などを通じた全国的な認知向上。

<施設のある地元千葉県および柏市での認知向上>

当団体の地元千葉県および柏市での認知度は決して高いとは言えません。
地元から里親さんになってくださる方やボランティアさんでも、今回初めて知ったという方が多くいます。
これは当団体の活動が遠く岐阜市からはじまったことや、捨て犬・捨て猫を防ぐため近隣地域ではあえて目立たないようにしていること、またそもそも私たちのような活動が認知されていないことで、能動的に探す方以外には知りえない事情もあります。
しかし千葉県内 600 万人、柏市内だけでも 40 万人の方に知られていないのは非常にもったいないことです。

<譲渡会にターゲットを絞った地域密着の告知等>

当団体では施設遠方の方にも里親さんになってもらうため、関東圏および名古屋市内を中心に出張譲渡会を開催しています。
※名古屋は活動がスタートした岐阜市最寄り的大都市だったという縁で開催する機会が多くなりました。

当然地元以外での認知度も高いものではありませんので、潜在的に里親になれる方を逃している可能性があります。

地元での認知向上の試みを応用し(また相互に補完して)多くの方に譲渡会に参加していただけるようにいたします。

<譲渡会の開催地域の拡大>

殺処分問題を解決する上での課題の一つに縦割り行政の問題があります。

多くの自治体は譲渡対象者を管轄地域内の居住者に限定していますが(※)、そのことで、例えばある保健所では数十名もの子犬の里親希望者が半年待ちで、一方のある行政では日々多くの子犬が殺処分されているという、需給のギャップが生じています。

※譲渡後の問題に対して管理者としての責任が取れないというのが主な理由です。

当団体は民間団体としてこの垣根を超えることができますので、譲渡会開催地域を拡大することで多くの子の譲渡につなげたい考えです。

<イベント・SNS などを通じた全国的な認知向上>

活動を広げていく上では多くの方に知っていただくことが重要です。

イベントや SNS などでの認知向上は必ずしも救命に直結するものではありませんが、長期的に活動を拡大する力になります。

当団体の現在のコンセプトはあくまで救命団体であり、救命に直結するものが最優先となりますが、段階的に関連する情報発信を拡大して参ります。

■少年犬・成犬たちにご縁をつなぐために

当団体は助けやすいところから助ける、というポリシーのもと子犬・子猫を中心に保護しています。お陰様でほとんどの子に良いご縁がありますが、それでも毎年ご縁がないまま大きくなってしまふ少年犬・成犬たちがいます。

こうした子たちもご家庭に迎え入れていただけるよう、下記を実施します。

<自宅預かりボランティア>

少年犬や成犬たちは元々シャイで里親さんにも敬遠されがちです。ボランティアさんのご自宅で人間と暮らすことに慣れてもらうことで、里親さんに目を向けてもらう機会を創ります。

<犬舎・ドッグランの完成・環境整備>

移転から二年がたちましたが、未だ犬舎・ドッグラン設備は完成に至っておらず、水道・電気の基本的なインフラがない場所もあります。犬たちの生活環境の改善のためこれらの完成をめざします。

■ハンディキャップのある猫たちが快適に暮らせるように

どのような子たちでも里親さんの温かいご家庭での生活に勝るものはありません。しかし、性格や日常生活にまったく問題がなくても、慢性的な疾患や、エイズや白血病などに感染していて、里親さんに敬遠されがちな子たちも多くいます。こうした子たちが快適に施設で暮らせるよう、飼育スペースの拡充を目指します。

■動物たちのセーフティネットの構築

問題の顕著化が確実視されているのが、人間の高齢化による人間とペットの老老介護の問題です。人間の高齢者は不十分ながらセーフティネットが確立されつつありますが、ペットの場合、飼い主の不在は即ペットの命にかかわります。

当団体も活動開始から15年が経ち、当初の里親さんが同様の問題を抱える例も増えてきました。

当団体だけで直ちに解決できるものではありませんが、これまでの活動のノウハウを活かして将来のセーフティネットの構築を目指します。

■認定 NPO 法人格取得

当団体も NPO 法人化から7年が過ぎました。認定を取得することにより法人としてのステップを目指します。認定を受けることで当団体へのご寄付の一部が税金の控除対象となりますので、支援者の方にもよりご支援いただきやすくなると考えております。

以上が2015年度の事業計画です。単年度での実現が難しいものについても一歩一歩前進し、将来の実現につなげて参ります。

今後とも皆様のご支援・ご声援をよろしくお願い申し上げます。

以上